

# かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第11号



シンポジウムのようす(2・3頁に関連記事)

## 歴史の山道と川の道

平成14年12月7日(土)、各務原市・犬山市交流事業として「—歴史の山道と川の道シンポジウム— 中山道と木曾川の今と昔」を、産業文化センターのあすかホールにおいて開催しました。

木曾川を挟んで兩岸に位置する各務原市と犬山市は、今でこそ行政区域によって区画されていますが、遺跡や土器から古代の物流のあり方等を検討してみると、同じ文化圏であった可能性が示唆されます。古代においては東山道<sup>とうさんどう</sup>、そして近世の中山道<sup>なかせんどう</sup>、都と諸地方を結ぶ重要な幹線道路<sup>かんせんどうろ</sup>(山道)と大河川木曾川(川の道)は各務原市・犬山市周辺で交わっており、交通の要所として大いに栄えていたことでしょう。

シンポジウム当日には、こうした郷土に根付いた歴史を活かして、地域の個性化を図るまちづくりについて、両市長を交えて活発な討論が行われました。

各務原市・犬山市交流事業  
**—歴史の山道と川の道シンポジウム—**  
**中山道と木曾川の今と昔**

**開催日時**

平成14年12月7日(土) 10:00～15:50

**会場**

産業文化センター1階 「あすかホール」

**後援**

犬山市・犬山市教育委員会

**プログラム**

9:30～開 場

10:05～講 演「美濃の古墳文化形成に関わる交通と地域交流」

11:05～座談会「道と川の歴史と地域文化の活性」

13:00～講 演「古代の美濃と東山道」

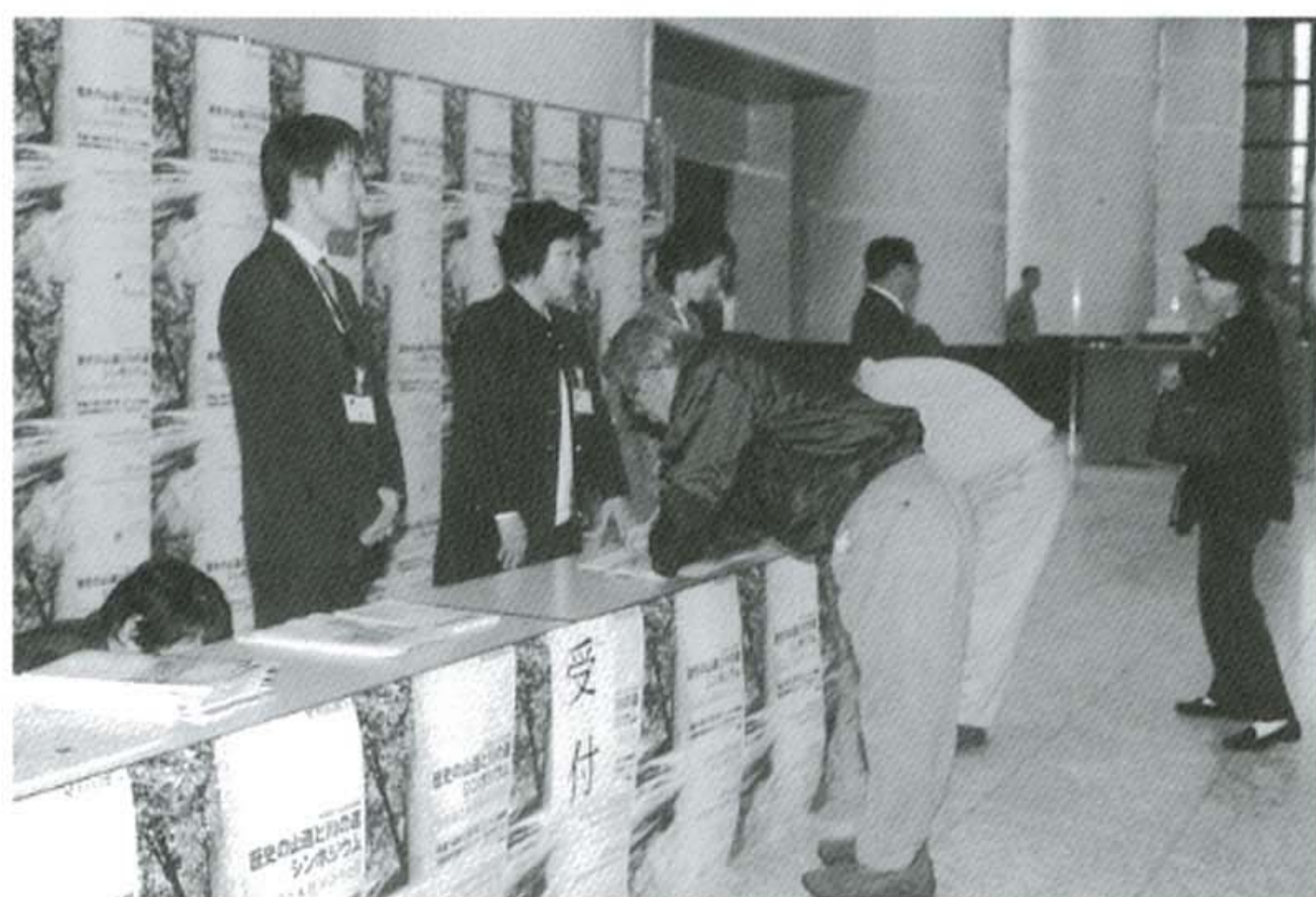
14:00～討 論「木曾川と東山道からみた美濃と尾張の古代社会」

**講演「美濃の古墳文化形成に関わる交通と地域交流」**

南山大学人文学部教授 いとうあきお 伊藤秋男氏

伊藤秋男氏は「道路と古墳の関係論」として、古墳と集落、そして道の関連性に着目し、古墳の分布から古代の道の復元を試みられました。特に、さんかくぶちしんじゅうきょう三角縁神獣鏡の性格から、その出土地の近くに律令時代の東山道の前身となる「ことうさんどう古東山道」と呼ぶべき道があったと推定され、各務原市内では各務山の北部を通過して鶴沼地区、そして犬山へとつながっていたのではないかと考察されました。

また、美濃の地域から古墳時代の鏡が多く出土していることを指摘し、古代の美濃が中央政権にとって非常に重要な土地であったと推察されるなど、重要な問題を分かりやすくお話しいただきました。



受付の様子



伊藤秋男氏の講演

平成11年度より開催しています各務原市・犬山市交流事業の歴史シンポジウムを、今年度は古代の道と川をテーマに開催しました。

会場は産業文化センターの「あすかホール」で、当日は雨にも関わらず多数の方々に参加していただき、約400名が古代の各務原に思いをはせました。

**座談会「道と川の歴史と地域文化の活性」**

各務原市長

もり しん 森 真氏

犬山市長

いしだ よしひろ 石田芳弘氏

南山大学人文学部教授

いとうあきお 伊藤秋男氏

愛知県埋蔵文化財センター

いしぐろ たつひと 石黒立人氏

座談会では地域の歴史や自然を活かしたまちづくりについて、ご自身も各務原市出身である

石黒氏の司会の中、活発な意見が交されました。

森市長は、川の持つ意義について「かつては地域を隔てる垣根だったが、これからは地域をつなぐオープンスペースになる」と話し、また石田犬山市長も郷土に根付いた歴史の重要性を強調するなど、これからのまちづくりに必要な基盤づくりについて、創造性豊かなアイデアが多く出されました。

また、これからの学問のあり方として、特定の学問に限定せず、1つのテーマを様々な学問から総合的に研究する必要があると話し、新しい地域学の創設が提案されました。



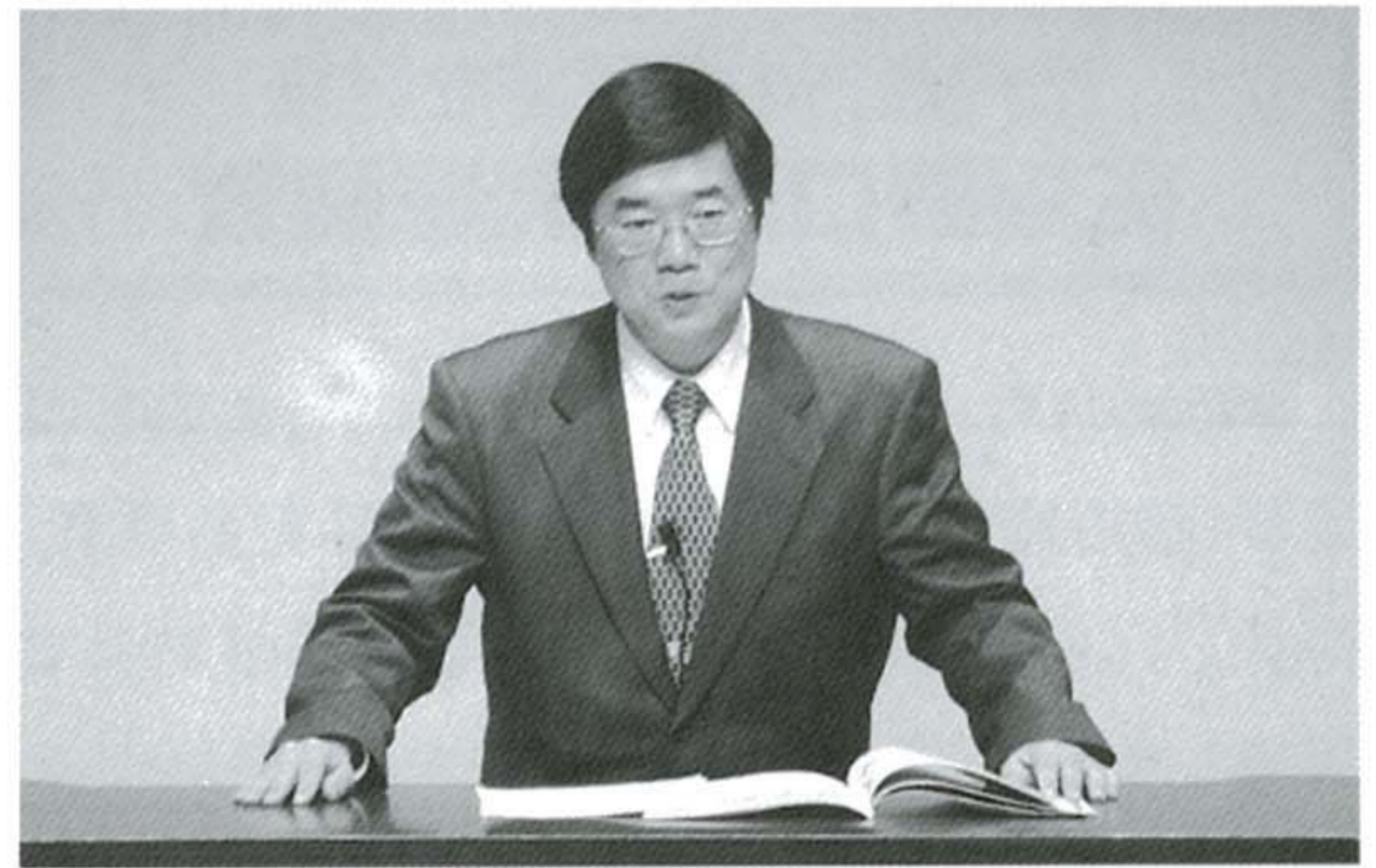
左・森各務原市長 右・石田犬山市長

### 講演「古代の美濃と東山道」

岐阜大学教育学部助教授 はやかわまんねん 早川万年氏

早川万年氏の講演では、文献史料を元にした歴史学の視点から、古代の美濃と各務原の社会を復元されました。

各務原は、古代には東山道と、輸送・移動手段として重要な存在だった木曾川が通る地域として拠点的な位置を占めていました。早川氏は、こうしたことを蘇原地区に集中する古代寺院跡や、9世紀の木曾川で起こった広野河事件などを例に、分かりやすく説明されました。また、現代になって川への意識が大きく変わったことを指摘され、古代において、木曾川をはじめとする川が物資の輸送や移動に大きな役割を果たしていたと述べられました。



早川万年氏の講演

### 討 論「木曾川と東山道からみた美濃と尾張の古代社会」

コーディネーター

はやかわまんねん 早川万年氏

愛知県埋蔵文化財センター

いしぐろ たつひと 石黒立人氏

岐阜市教育委員会

うちほりのぶ お 内堀信雄氏

可児市教育委員会

なが せ はるよし 長瀬治義氏

犬山市教育委員会

ひらまつ ひさかず 平松久和氏

各務原市教育委員会

わたなべひろ と 渡辺博人氏

討論会では、愛知県の埋文センターをはじめ、岐阜市、可児市、犬山市といった各務原市周辺で活躍する研究者が集まり、古代の生産と物流、遺跡から考えられる古代の道のあり方など、最新の研究成果を元にした発表が行われました。

また、土器の分布エリアの問題や、古代美濃・尾張における律令体制への編入の問題、そして尾張よりもむしろ木曾川流域を意識した犬山市の古墳のあり方など、現在の行政区画にとられない考え方の必要性が示唆され、古代の道や河川交通、そしてそれに伴う地域間交流や流通について、多くの議論が交されました。



討論のようす

市内最古の井戸跡を発見  
ひろはたのぐちいせき  
**広畑野口遺跡発掘調査**

蘇原野口町・蘇原新栄町において、道路の拡幅工事(都市計画道路岐阜・犬山線街路整備事業)が行われることになったため、緊急発掘調査を実施しました。調査は、4月23日から8月20日まで行いました。

調査の結果、奈良時代(8世紀前半・8世紀後半)、平安時代(9世紀前半)、室町時代(14世紀)の遺構と遺物が発見されました。なかでも8世紀代ぜんようのものが最も多く、17基の堅穴住居たてあなじゆうきよや2基の井戸跡いどあととともに多量の須恵器が出土し、この時代に安定した生活居住区が存在したことがわかりました。さらに、「美濃国」刻印須恵器を含む多量の土器類はいきが廃棄された土坑どこうが見つかり注目されます。また、別の土坑からは、都の役人のために作られたと言われる畿内系土師器きないけいはじきが出土するなど、この地が美濃国のなかでも重要な地域であったことを想像させる資料が得られました。

出土品は今後整理を行うと共に、15年度は道路の西延長を発掘調査する予定です。



須恵器に刻印された「美濃国」



発掘風景



広畑野口遺跡空中写真



市内最古の井戸跡(8世紀前半)



廃棄土坑の遺物出土状況

## 炉畑集落の全貌解明にヒント 炉畑遺跡B地区発掘調査

鶴沼三ツ池町にある炉畑遺跡は、縄文時代中期後半を中心とする集落遺跡で、昭和43年から5回の発掘調査が行われています。その結果、10基の竪穴住居が確認されました。これらの発掘後、遺跡には住居跡が復元されるなど公園として整備され、今日に保存活用されています。炉畑遺跡は、岐阜県史跡にも指定され、東海地方では学史的に有名な遺跡です。

さて、今回、この炉畑遺跡公園の拡張リニューアルが計画されました。そして、その設計に先立ち事前に発掘調査を行うことになりました。それは、拡張する公園北側の用地が、炉畑遺跡がまだ続く範囲であると考えられていたからです。この発掘調査の結果を、公園設計に反映させることができるかもしれません。

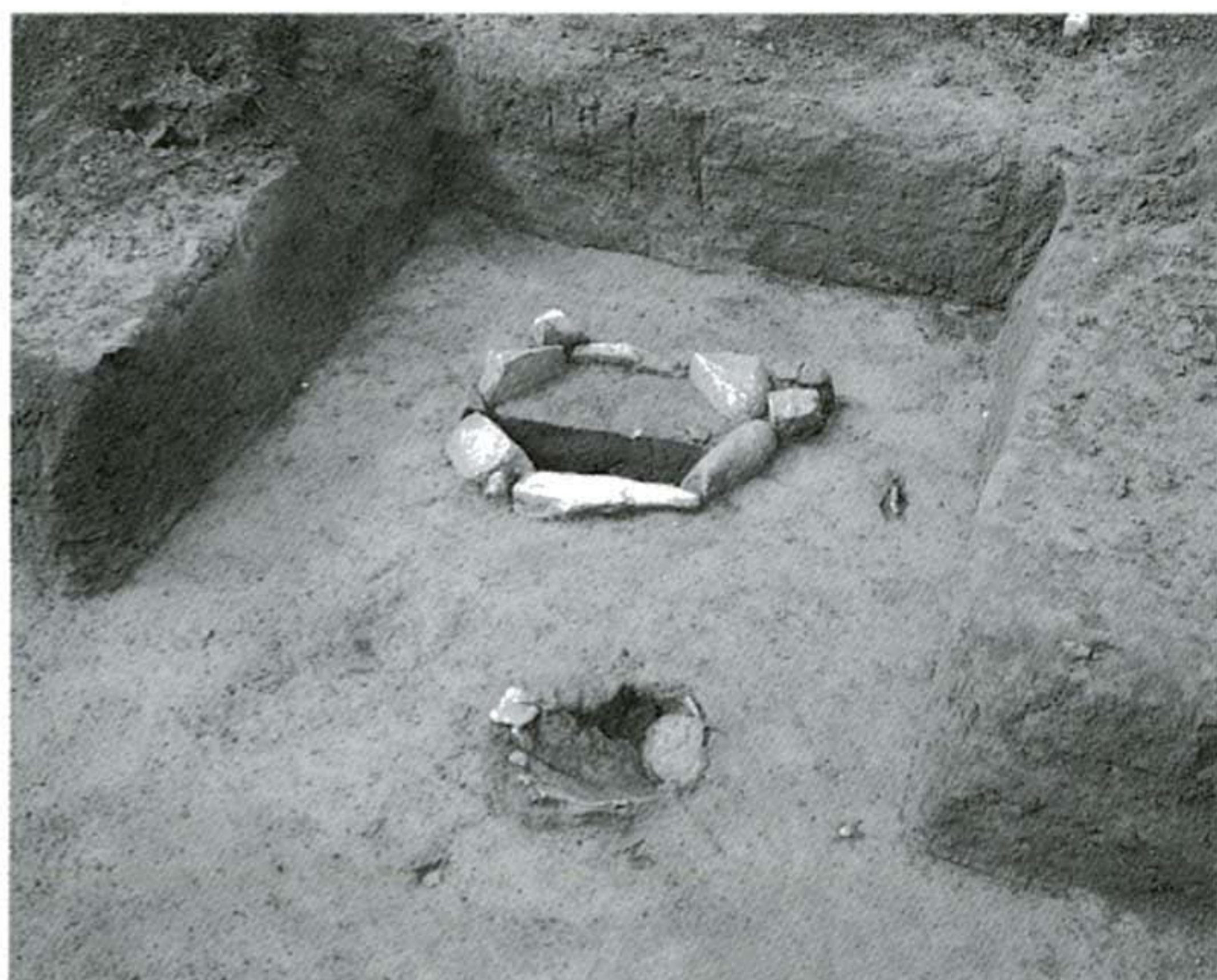
発掘調査は、約3000 m<sup>2</sup>の敷地内に幅1 m、長さ45 mのトレンチを13本設定するという部分発掘の方法で行いました。調査期間は、平成14年12月14日から翌年の3月29日までの間です。その結果、意外にも竪穴住居の存在は確認されませんでした。代わりに、屋外炉、貯蔵穴が集中する箇所や、掘立柱の建物跡と思われるものが検出されました。全体には、多量の縄文土器片や石器が散らばっていました。

これらの事実は、炉畑遺跡の全体を知るための重要な手掛かりになるものと思われます。すなわち、炉畑の集落は竪穴住居の建つ居住区が一定範囲に限定され、その他の空間は倉庫や物置、貯蔵穴、そして共同広場のある空間として機能が分かっていたと言えそうなのです。詳しい事は、今後の整理作業で分析していきます。

どのような公園が完成するのか、大変に楽しみです。



発掘風景



屋外石囲炉



貯蔵穴群

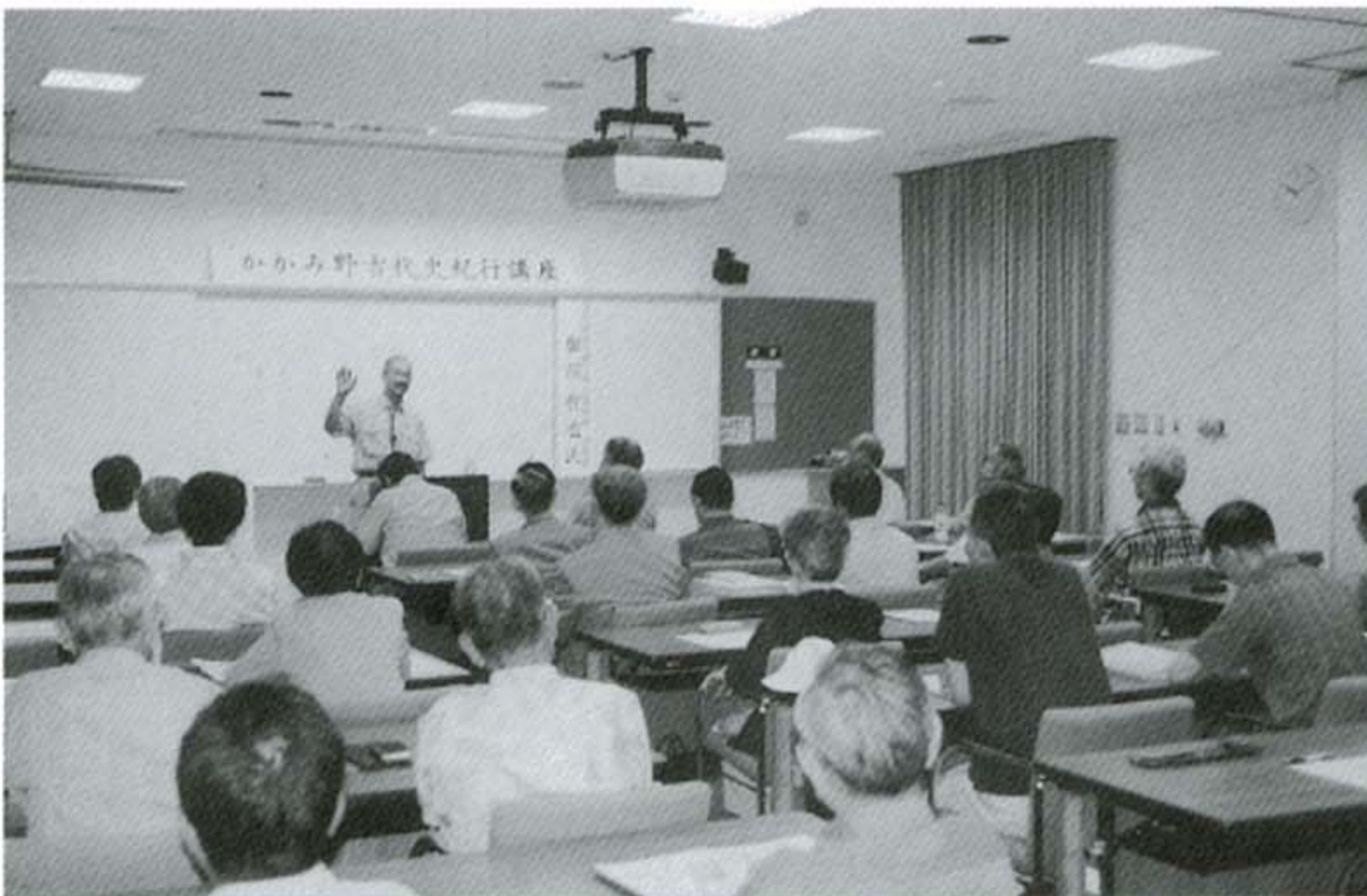
## 第4回 歴史講座 かかみ野古代史紀行

古代の各務原と美濃について市民の皆さんと一緒に勉強する「かかみ野古代史紀行」ですが、今年度は「古墳時代の技術と文化」をテーマに全7回の講座を開催しました。

専門の研究者である講師の方々が、古墳の築造方法や出土品、そして古墳時代の社会のあり方など、最新の研究成果を元に講義されました。

講座には多数の申し込みがあり、定員の40名を超える44名に参加していただきました。講座のスケジュールは以下の通りです。

- 5/25(土)「古墳時代の技術と文化」  
独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所 たかはしかつひさ 高橋克壽氏
- 6/8(土)「美濃の後期古墳の築造技術」  
池田町教育委員会 よこまくだいすけ 横幕大祐氏
- 6/22(土)「濃尾の石棺」  
名古屋市見晴台考古資料館 はっとりてつや 服部哲也氏
- 7/13(土)「美濃の集落出土の製塩土器」  
豊田市役所 もり やすみち 森 泰通氏
- 7/27(土)「古墳時代の木製品からみる東海古墳時代」  
(財)愛知教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター ひがみ のぼる 樋上 昇氏
- 8/10(土)「古墳出土の各務原の馬具」  
(財)岐阜県文化財保護センター さわむらゆういちろう 澤村雄一郎氏
- 8/24(土)「鬼の衰退から天狗へ」  
各務原市教育委員会 あさのひろみつ 浅野弘光氏



講座のようす(第3回 服部哲也氏)

## 埋文体験講座

平成15年度は、夏から秋にかけて「まが玉づくり(滑石)」(8/3)、「まが玉づくり(樹脂)」(8/17)、「縄文アクセサリーづくり」(9/7・10/5)、「古代土器づくり」(9/21・10/19)、「縄文風クッキーづくり」の5種類の講座を開催しました。

「まが玉づくり」では勾玉の材料によって、初心者向けの滑石と、彩色されているかわりに作業が大変な樹脂とに分けました。それぞれ30名に参加していただき、滑石と樹脂、どちらもきれいな勾玉ができあがりました。

「縄文アクセサリーづくり」と「古代土器づくり」は全2日の日程で行いました。どちらも1日目に粘土で形を作り、約1か月の乾燥期間をおき、2日目に炉畑遺跡で野焼きを行いました。「古代土器づくり」では年齢の高い方の参加も多く、見本の実物の土器を見ながら真剣に土器をつくる姿が印象的でした。

「縄文風クッキーづくり」は炉畑遺跡で集めたドングリを材料に縄文クッキーを作り、完成後には全員で試食しました。初めて口にするドングリの味については、「あまりクセがなくて食べやすい」ということでした。

これらの講座とは別に、5月から8月まで「古代火おこし」と「石器づくり」の講座を随時行い、合計で約130名の参加がありました。



野焼きをした土器

## 新刊図書の案内

おおまきいちごうふん

### 大牧1号墳発掘調査報告書

木曾川河畔に造られた古墳時代後期の前方後円墳です。全長約45mで南に開口する横穴式石室には県下最大の家形石棺があります。副葬品として6世紀後葉の須恵器のほか、金銅製の馬具や鉄鏃・直刀・鉾などの武器類、そして挂甲という騎乗用の鎧が出土しています。また、装飾品ではトンボ玉が20個余り出土しました。

うぬまにしまちこふん

### 鵜沼西町古墳発掘調査報告書

平成12年度に発掘調査を実施した、古墳時代終わり頃(7世紀前半)の方墳です。墳丘は方形を呈し、北側を除いて外護列石を上下二段にめぐらせていました。石室全長11m、墳丘の一辺が20mに及ぶ大型の方墳で、市内では初めての調査事例となりました。

いぎやまじょうし

### 伊木山城址発掘調査報告書

戦国時代に織田信長が美濃攻略をめざして拠点とした木曾川北岸の山城跡です。城跡全域からは曲輪を構築した石積みを確認されたほか、城の中心となる曲輪から16世紀前半の天目茶碗が出土しました。また、天守台の跡と伝えられる櫓台状遺構からも、祭祀関係と考えられる土師質土器が出土しています。

※センターでは、報告書を分かり易くまとめたリーフレットを無料で配布しています。

### 平成12年度「かかみ野古代史紀行」講義録

1. 「木曾川流域の中世」  
(財)愛知県教育サービスセンター  
愛知県埋蔵文化財センター主査 小澤一弘氏
2. 「美濃における群集墳と各務原地域」  
岐阜県教育委員会  
社会教育文化課文化室学芸主事 成瀬正勝氏
3. 「奈良時代の集落」  
愛知県立江南高等学校教諭 小川芳範氏
4. 「須恵器の生産と流通」  
花園大学文学部助教授 山田邦和氏
5. 「土器の生産と流通」  
三重県生活部文化課  
県史編さんグループ主事 上村安生氏
6. 「律令地方行政と古代の各務原」  
愛知県立大学文学部助教授 丸山裕美子氏

### 平成13年度「かかみ野古代史紀行」講義録

1. 「美濃の古墳文化と古東山道」  
南山大学人文学部 伊藤秋男氏
2. 「織豊期の瓦」  
岐阜市歴史博物館学芸員 土山公仁氏
3. 「古代の仏教信仰」  
名古屋市立大学人文社会学部助教授 吉田一彦氏
4. 「美濃の古代寺院と瓦」  
岐阜県立岐山高等学校教諭 大塚章氏
5. 「尾張の古代寺院と瓦」  
名古屋市博物館学芸員 梶山勝氏
6. 「古代の祭祀信仰」  
愛知教育大学教育学部助教授 西宮秀紀氏
7. 「古代中世の製鉄」  
岐阜県立武義高等学校教諭 尾関章氏
8. 「鬼の発生と豪族の相克」  
各務原市教育委員会教育長 浅野弘光氏

## 日誌抄 (2003.1現在)

### ◆見学・来訪

6/13	那加第1小学校6年生見学	108名
6/15	古瓦観察会来訪	
7/30・8/7	稲沢文化財愛護少年団・ 師勝町文化財愛護少年団見学	145名
8/20	夏休み親子動く市民教室見学	30名
9/21	東海石器研究会来訪	25名
11/2	中部弥生時代研究会岐阜例会準備会来訪	7名
10/31	秋の公募動く市民教室	25名

### ◆各務原市生涯学習まちづくり出前講座

5/14	西生涯学習センター成人講座 「埋蔵文化財から各務原の歴史を解明する」
6/14	ライフカレッジ稲羽西「川と大地と遺跡」
6/18	ライフカレッジ稲羽東「川と大地と遺跡」
7/2	埋蔵文化財同好会かかみの 「各務原に最古の遺跡を求めて」
7/11・7/12	中央中学校 マナビスト講座 「広畑野口遺跡発掘体験」
8/6～8/8	各務原高校1年生 インターンシップ 「広畑野口遺跡発掘体験」
8/24	各務原歴史研究会「各務原の考古学」
10/23	陵南小学校6年生 総合的な学習「勾玉作り」
10/30	各務小学校6年生「天狗谷遺跡見学」
11/5	各務原市退職校長会よしみ会「各務原の考古学」
11/5・11/14・11/21	那加第一小学校6年生 総合的な学習の時間 「勾玉、土器、古墳の模型作り、農具作り、火起こし」
11/9	陵南小学校 家庭教育学級 「家族で矢じりを探そう、作ろう」
1/18	鵜沼第一小学校 ういちおもしろ体験講座「勾玉作り」

### ◆資料貸出・写真掲載

4/1	愛知県陶磁資料館 常設展「猿投・瀬戸：全国古窯陶磁資料展」 美濃須衛窯跡群出土資料貸出 (平成6年より継続)
5/1	窯業史博物館(栃木県) 平成14年度特別展「古代東国出土の施釉陶器」 美濃須衛窯跡群出土資料貸出(～平成15年4月)
5/21	『考古資料大観 第5巻 弥生・古墳時代 鏡』 (株)小学館 平成14年10月発行 一輪山古墳出土・三角縁波紋帯四神二獣鏡の写真掲載
7/9	美濃加茂市民ミュージアム 企画展「発掘された尾崎遺跡」 三井遺跡出土資料等の貸出(～平成14年9月)
7/10	鈴鹿市考古博物館 企画展「戦争遺跡を掘る～鈴鹿市が生まれた頃～」 蘇原東山遺跡群出土資料等の貸出(～平成14年9月)
1/6	『岐阜県教育史』通史編(平成15年3月発行) 三井遺跡出土資料等の写真掲載

### ◆職員派遣・指導鑑定

6/6	(財)岐阜県文化財保護センター 寺平遺跡・尾元遺跡出土の灰釉陶器についての指導
8/1～9/30	岐阜大学教育学部「博物館資料論演習Ⅰ」 非常勤講師として派遣
8/18	美濃加茂市民ミュージアム ミュージアムフォーラム講演会の講師として派遣
9/3	(財)岐阜市教育文化振興事業団 加納城出土遺物等についての指導
11/25	(財)岐阜県文化財保護センター 柿田遺跡出土の須恵器・灰釉陶器についての指導

## 編集後記

今年度開催しました「歴史の山道と川の道シンポジウム」には大勢の方々に参加していただき、郷土の歴史に対する関心の深さを実感致しました。今後も発掘調査等によって得た情報を十分に活かした展示等を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。(S)

## 〈埋蔵文化財調査センターのご案内〉

開館時間：午前10:00～午後5:00

休館日：月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)  
祝祭日の翌日(その日が土曜日、日曜日、休日の場合は、更にその翌日)  
年末年始(12/28～1/4)  
市教育委員会の定める日

交通：名鉄各務原線市民公園前駅下車徒歩一分

入館料：無料

駐車場：右図参照(JRと名鉄の間)

## 各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第11号

〈平成15年3月〉

編集  
発行

各務原市埋蔵文化財調査センター  
〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3-1-3  
TEL 0583(83)1123 FAX 0583(71)1145  
ホームページ  
<http://www.city.kakamigahara.gifu.jp/maibun>

